

ウワサの保護者会！

今回のテーマは「どうする？子どもとインターネット」

今どきの子育てならではのキーワード、どんなお悩みがあるんでしょう？

【今回のホゴシャーズ】

アロエ (母) : 長女・小4

ヤマガラ (母) : 長女・高1/長男・小5

金のなる木 (母) : 長男・小6/次男・小4

ヒツジ (母) : 長男・23歳/次男・20歳/三男・中3

コスモス (母) : 長女・大2/次女・中3

タンポポ (母) : 長女・高3/長男・中1

マンモス (父) : 長女・中3/長男・小5

ミツバチ (父) : 長男・高2/長女・中3/次男・小5/次女・小5

高山 : 今日は、子どもとインターネットの関係というのを見ていきたいと思うんですけど、尾木ママはブログもされていますし、インターネットには詳しい？

尾木 : いやあ～、僕は1日ブログの更新なんか10回ぐらいしていますからね。すごいヘビーなのよ。
(一同笑)

尾木 : 言いたい放題書いちゃうのね。それがね、ネットニュースにすぐなっちゃうんですよ。
「尾木ママ激怒」とかね。激怒してないのに、怖いわね (笑)



高山 : ちょっと目をそらされました、タンポポさん。インターネットはどうですか？

タンポポ : 今の子は小さい頃から携帯電話があったり、スマホがあったりするけれど、取っかかりをどうしたらいいかわからない。

一応スマホにはなったんですけど…。

高山 : それは、ママのスマホなんですよ？

タンポポ : そうです。それを全部子どもが設定をしています。

高山 : 子どもが設定をしている！ほおー。

タンポポ : だから、規制とかはできないです。設定されちゃったから。

尾木 : 設定されちゃった (笑)

金のなる木：子どもの方が詳しいってことですね？

タンポポ：詳しいです！

高山：ヤマガラさんはどうですか？

ヤマガラ：私はインターネットが使われ出したときからずっとやっているんですよ。

高山：それこそ、本当に20年ぐらい前ですかね。

ヤマガラ：そうですね。

尾木：じゃあ、かなりプロ級ですよ？

ヤマガラ：プロ級ってことは…どうでしょうね。一応、仕事でもよく使うので。

高山：ミツバチさんはどうですか？パソコンは。

ミツバチ：僕なんかはパソコンで慣れているので、スマホは面倒くさくて、面倒くさくて。変換とかイライラするからスマホは全然使わないですね。

高山：お子さんの、パソコンやインターネットの使い方っていうのは？

ミツバチ：もう使わせ放題ですね。うちはね。

高山：使わせ放題！？

ミツバチさんのお宅でどのようにインターネット、パソコンなどが使われているのかを皆さんにご覧いただきたいと思います。

ミツバチさんがまだ仕事夜の7時。

自宅ではママと子どもたちが夕食をとっていた。

中学生のさえさんと、5年生のあゆむ君。そして3年生のかのんちゃん。

食後にさえさんが始めたのは・・・メール。

かのんちゃんは・・・

（タブレットを手に取り…）

かのん：ねえねえ、見ていい？ iPad

2人は、タブレットでインターネットの動画を見始めた。

アニメや投稿動画が大好きなのだ。



ミツバチさんが帰宅すると、かのんちゃんが膝の上へ。
でも手を伸ばすのは・・・やはりタブレット！

あゆむ君が熱心に見ているのは、ゲームの上級者が投稿した動画。
自分は持っていないゲームでも、人がクリアしていく様子を楽しめる。



そして、ここから丸1時間、インターネットに釘づけど。
夜9時。もう寝る時間。

ママ：あゆむ君9時だよ。寝ないと！明日8時集合だよ！

あゆむ：うん、大丈夫。

（眠そうに目をこするあゆむ君）

ママ：ほら、もう眠いでしょ？目をコスコスしているよ。もう寝な！

しかし・・・

あゆむ：寝ない！それじゃあ、もう一回見よう。

寝る時間を過ぎても見続ける・・・

最近はこんなことがしばしばあるという。

（さらに、1時間経過・・・）

ママ：明日起きられないよ！本当に。ママ起こさないよ！

パパとママは、楽しむのはいいけれど、生活のリズムが乱れるのは問題だと感じている。

（あゆむくん、夜10時ようやく就寝）

ママ：もう寝る時間なのに寝ないんです。9時ぐらいにはだいたい寝ることになっているのに、今日は10時に寝る、となるのはよくないと思います。

ミツバチ：オススメの動画っていうのが（画面の）下に出てきちゃうんだよね。あれが出てきちゃうと、これもこれもって見て、終わりがいいんですよね。
自分で自分のことをコントロールできなくなったときが一番ダメな瞬間だと思いますね。

子どもの生活の中で存在感を増すインターネット。
あなたのお宅ではどうですか？

高山：ミツバチさん、お子さんたち（タブレットが）手放せないという状況なんですかね？

ミツバチ：そうですね。もう日課になっていますね。（動画を）見るのが。

またね、最近投稿する人って、毎日投稿するんですよ。だから、見るほうも毎日見るんですよ。そう、システムが出来上がっちゃっているんです。常習化していますね。

金のなる木：うちもやっぱり同じような感じがあって。

ただちょっと違うのが、うちは自分たちでパソコンが開けられないようになっていて、私がパスワードで管理しているので、見たいときは「パソコン開けてよ」って言われるんです。そうしないと切りがなくて…。

タンポポ：バレないんですか？そのパスワードは。

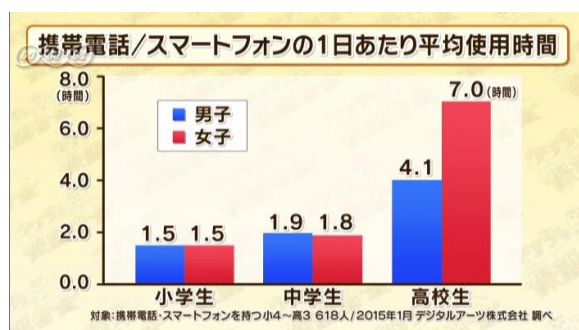
金のなる木：「見ないでね！」って言っている。今はまだ、わが家は小学生なので、何となくうまくいっているんですけど、もっと年齢が上がったときにどうなるのかなっていうのが、ちょっとやっぱり心配です。

コスモス：スマホ…。うちは、娘2人なんですけれど、下の子は好きな俳優さんがいて、動画を探して、それがずっとついた状態にして、試験勉強をしているんですけど。勉強しているようなんですけど、ふって見ると、もう動画をこう（ずっと見ている状態）。

高山：勉強が身に付いてない？

コスモス：全然ダメですね。もう“追試だ！”みたいな感じで。

子どもたちはインターネットをどれくらい使っているのか。
気になるデータが。



高山 : 携帯やスマートフォンを持つ子どもが 1 日に何時間使っているかの調査なんですけれど、小学生や中学生は平均 2 時間以下なんですけど、高校生にご注目ください。高校生になると男子は 4 時間ちょっと。女子はね、7 時間。女子の方が圧倒的に多いんですね。

金のなる木 : 私、男子のほうが多いかと思っていました。

高山 : 女子のほうが圧倒的に多いんですね。

マンモス : LINE とかだと、来たらすぐに返事するみたいなの。

ヒツジ : お風呂に入ってもやっていますね。

ヤマガラ : 寝ている間もお布団でやっている状態ですよ。

金のなる木 : 寝られないぐらいね。

尾木 : それで言いますと、高校生の 6 割が“依存”(状態)なんですよ。

金のなる木 : 依存っていうと、どれくらいの基準なんですか？

尾木 : それも、わかんないでしょ。「コントロールできなくなったら危ないよ」っていうふうに、ミツバチさんおっしゃったよね？あそこが 1 つの指標ですね。自分でやめようと思ったときに、やめられるか。それから、依存になってきたかっていうのを、一番お母さん方がわかりやすいのはね…。

急に(皆さんの)目が真剣、やだー(笑)

あのね、ほとんど必ずといっていいほど成績が落ちるんです。それでいっぺんにわかります。

始めから赤点だったら大丈夫よ(笑)

もう底に付いているんだから、後は上がるだけ。安心よ。

コスモス : 上がるのかなあ～。

高山 : さあ、続いて、ホゴシャ～ズの中のヒツジさんには、実はインターネットを巡るあるショッキングな出来事がありました。

ヒツジさんは 3 人の息子を持つお母さん。

末っ子は思春期真っ只中の中学生。

インターネットを巡るある事件に遭遇したのは去年の夏のことだった。

ヒツジ : できれば見たくなかったっていうのが本心かもしれないですね。

自分の中で、「あちゃ～。あら～」って。

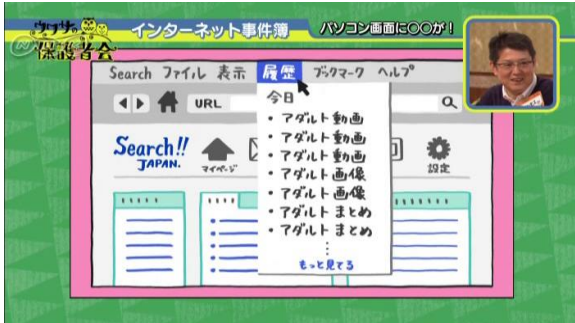
ある日、仕事から帰ってくると・・・ヒツジさんの部屋のパソコンの電源が入っていた。

さらに、エアコンもついている。この部屋に、誰かいた？

胸騒ぎがして、すぐにパソコンを調べたヒツジさん・・・

画面に映ったのは予想もしないものだった！

なんとインターネットの検索履歴に、アダルトサイトがずらり！



家にいたのは中学生の三男だけだ。

ヒツジ：年が兄弟の中でも離れているものですから、まだ自分の中で幼いと思っていたんです。赤ちゃん扱いじゃないですけど「まだまだ」っていうのがあったんですね。

もしやと思い、自分の部屋にいた三男に聞いてみた。

ヒツジ：「ちょっと、お母さんパソコンの履歴確認したんだけど、(アダルトサイトを)開いちゃった？」って。しばらくしてから「うん…」っ、小さく「うん…」って認めたので、ああ(と思って)それから話をしました。

ヒツジ：アダルトサイトには、知らぬ間に料金を請求される危険なものもあるんだよ。見たい気持ちは分かるけど、ちゃんと考えないとダメだと思うよ。

ヒツジさんは、架空請求の危険があると注意しただけで、アダルトサイトを見るなどは言わなかった。



ヒツジ：ある程度の性描写は、これから、男の子は特に、興味を持たないほうがおかしいと私は思うので。(気持ちは)半々ですよ。見てほしくはない。でも、通らなくちゃいけない道。ある程度はしょうがないのかなっていう。

男の子だからある程度はしょうがない。

じゃあ、ヒツジさんの思うある程度って、どの程度？

ヒツジ：私の中で言ってしまうえば、もしかしたら“ドラマの中の場面”くらいの描写かな？って、今、ふと頭の中に浮かびました。

テレビドラマで満足なら、アダルトサイトは見ないのでは？

ヒツジ：確かにそうですね！（笑）基準…難しいです。

インターネットで見ていいものの基準ってなんだろう？

ヒツジさんは悩んでいます。

高山：母としては複雑な気持ちだと？

ヒツジ：そうですね。

金のなる木：しょうがない感じですよ。私もそう思います。

うちはまだ小学生で、まだそこまで見るところにいかないんですけど、何が基準になるんでしょうね。私は（息子に）「見た？」とは聞けないかもしれないですね。まず、履歴を見ることもしなと思います。

尾木：やっぱり怖いから？

金のなる木：うん、なんか、怖いかな。

「見た？」も聞けなくて、結局旦那とかにちょっとツンツンして「ちょっと聞いてみってくれる？」みたいな感じで、自分でそこに触れる勇気が出ない。

尾木：その触れる勇気が出ないって、何を恐れられているのかしら？

責めているんじゃないのよ。素朴に、素朴に聞いているの。

金のなる木：成長過程なんだけれども、まだなんかちょっと見ていてはほしくない気持ちと、葛藤があるっていうかね。

マンモス：特に、ママたちからすると思春期になって、急に出てきた問題なのかもしれないけど、男からするとそれって別になんか、小さい頃からそれなりに興味を持ち続けていることなので。

ヒツジ：でも、長男のときとかは昔からある雑誌のほうなので、お小遣いがなければ買えないし、もちろん成人雑誌っていうのは買えないですよ、未成年には。

三男の場合はもう、パソコンの中、インターネットの中にどんどん入っていける、そういう環境の中にいるなっていうのはすごく感じましたね。

高山：子どもたちってね、好奇心いっぱいですからね。

尾木：（好奇心の）かたまりですよ。

ヒツジ：私の中で、男の子だから、これからそういう性のこととにかく関わっていくんでしょけど、女性を大切にするような性に関わってほしいってすごく思うんです。

尾木 : すばらしい。



マンモス : うちも、そもそも違う異性に対する思いとか、その前で言うと命。まず自分の命を大切にしないとい、小さい頃から言っていて。それにプラスα、やはり相手のことをちゃんと考えてってというのは言っていたので、思春期になる手前ぐらいから、“異性に対して”っていうところは、ちゃんとメッセージとしては伝えたほうがいいかなっていうのはありますよね。

尾木 : 男性、お父さんでそこまで考えてくれていると、お母さんは助かるよね。

高山 : 性のことだけじゃなくて、子どもに触れてほしくないなっていう情報って他にありますか？

アロエ : 外国の事件などの暴力的な無修正なものとかも、男の子は見たっていう思いを心のどこかに、いいことではないってわかっているけど、持ってしまうのはしょうがないことだと思うんですね。怖いと思います。

ヤマガラ : 犯罪系は、いやですね。

金のなる木 : 私も、それはいやだなと思って。

高山 : このメンバーの中で、1番ネットにお詳しいのがヤマガラさん。

ヤマガラさんはご自宅で、厳格なルールをお持ちなんですよ。

ヤマガラ : 厳格なんですかね？厳格なのかな。

高校生の娘と小学生の息子を持つヤマガラさん。

彼女の方針は・・・

ヤマガラ : うちにはインターネットは一切禁止です。パソコンも親のスマホも、一切触るな！と。

なんと！子どもが家でインターネットを使うことを一切禁止している。

もし子どもたちに、どうしても見たいものがあると言われたら？

ヤマガラ : 私に言ってくればOKなものであれば、私が自分のパソコンで見せてあげるの。

例えば、子どもに「インターネットで見たいアニメがある」と言われた場合。

まずは、部屋の外に子どもを出す！

そして、ヤマガラさん自身がインターネットで検索。

リクエストされたアニメの内容だけでなく、画面上の広告など隅々までチェック！



見せても大丈夫だと判断したら、部屋に呼んで一緒に鑑賞するのだ。

このルール、子どもたちも納得しているそう。

ここまで厳しく目を光らせるのは、ヤマガラさん自身がインターネットで傷ついた経験があるからだという。

ヤマガラ：やはり私の周りでも、過去にいろいろトラブルが起きているので。

実生活でも仲のいい友人達とSNSを楽しんでいたヤマガラさん。

ところがちょっとした言葉の行き違いで、全員が険悪になり、音信不通になってしまった。

インターネットでゲームをするうち、知らぬ間に課金されていたという話も身近にあった。

ヤマガラ：インターネットは“夜の外国の街”と同じだっていう認識です。



夜の外国の街？それってどういうこと？

ヤマガラ：何でもあるじゃないですか？楽しいものも何でも。でも、外国の夜の街って危ないじゃないですか？ただでさえ言葉が通じないのに、どこに何があるかわからなくて、鉄砲持った人もいるかもしれない、悪意を持つ人も。善意の人もいますけど。“夜の外国の街”は大人でもためらいますよね。

でも、インターネットって結局そういう世界だって思うんですよ。子どもを1人で行かせられますか？っていう。

子どもがインターネットを使うのは一切禁止！

ヤマガラさんのルール、皆さんどう思いますか？

高山：ミツバチさんが、ハッて声をあげてらっしゃいました。

ミツバチ：自分で指を切ってみないと包丁がうまく使えないのと同じで、僕は使わせて危険な目にあわせたいなど。そうやって覚えさせていきたい。

いや別に、一生ヤマガラさんがチェックできればいいですけど、そういうわけにいかないですよ？

ヤマガラ：そうですね。

ミツバチ：いつかは子どもたちにも、使い方を教えないといけないときが来ますからね。そうすると、早い方がいいかと。

コスモス：（ヤマガラさんに）それはいくつとか決めているんですか？18歳とか。

ヤマガラ：とりあえず、最低ラインは自分で料金を支払えるようになる時期。料金を払いつつ、自分の行動に責任が持てますか？っていう。自分でものを考えて、しっかり判断ができるかっていうのを基準にはしています。



金のなる木：そうすると高校生、もうちょっと？

ヤマガラ：高校生じゃちょっと、はい、卒業…。

金のなる木：卒業してから？

ヤマガラ：そうですねえ。

尾木 : さっきすごく大事だなと思ったのはミツバチさんが、自分で包丁で指を切らないと痛みがわかんないだろうとおっしゃったの、確かにそうなんです。そういう経験では、どうですか？お子さんで何か痛い思いを、ちらっとしたっていうのは。

ミツバチ : 上のお姉ちゃんはフェイスブックで、ライン友だちっていうのを募集していたんですね。そしたらやっぱりね、いろんな男性からものすごい連絡がくるんです。

尾木 : 男性からは絶対来る。女の子には。

ミツバチ : 本人はきっとね、そんな危険だと思っていないで、純粹に友だちを探したかったと思うんですけど、自分の本意じゃない人が集まって来るとか、そういうところは(危なかった)。(そのときは)僕が早めに目にしたので。

削除しなさいって伝えました。

高山 : 見つけてあげることができて、よかったですね。

尾木 : できたからよかった。やっぱりお父さんがしっかりスキルがあると、そうやってすぐ発見できるしね。お父さんがリードしているんだと思うんですよ。だから、まだ痛い思いする前でもの。

ヤマガラ : ニュースとかで、よくインターネットトラブルの報道があるじゃないですか。本当は大人の人なのに「僕小学校何年生だよ」とか言って、騙して呼び出すとか。そういうのは、ちゃんと言っているんですよ。「こういうことがあったけどどう思う？」って。そうすると「こんなことがあるの？」っていう感じになって。いいところも悪いところも両方伝えてあげて、自分で考えられるようになればなって思います。

コスモス : 私はちょっとヤマガラさんのようにはなれないんですけど(笑)

幸い子どもは(インターネットを)今のところ堂々と見ているんですよ。パソコンも家のもので、画面が私も見える状態になっているので、内容が見えちゃうんですね。携帯も(娘が)いじっているところを、私がのぞいても別に動じないわけですよ。なので、安心は安心なんですけど。これから先はわからないので、きちんとその辺(いいところや悪いところ)は説明は出来るので、説明はしていきたいなって。

高山 : (インターネットが使用できるものが)自分の部屋にとか、手のひらにあると目が届きにくくなりますよね。

コスモス : そうですね。

金のなる木 : やっぱり、自分で責任を持てる年齢になって解除するっていうのは、確かにそうかなって。

今はやっぱり私の目で制限をかけて、ヤマガラさんほどではないですけど、制限して見てあげないと、ちょっとわが子はちょっと難しいのかなって思いますね。

アロエ : 子どもって、自分で着替えや学校行くのが出来るようになると、何でも自分で出来ると思いきりこんでしまうところがあるので。

尾木 : 中学生ぐらいそうですね。

アロエ : 「まだまだ、親の世話になっているっていうふうに思いなさい」って言っているんですけども、こどもはその言葉を破って、いつもかいくぐっていこうとするので、ちょっとこれから先は戦いかなって。

高山 : タンポポさんは？

タンポポ : 私は、本当にスキルは無理です (笑)

もう、スキルは絶対無理なんで。今はうちもリビングにパソコンがありまして、履歴の検索まではしたことないんですけど…。出来ないの…。

人として、これがいけないとか悪いとかっていうのは、ニュースを見た、その時々で言っているの、まあ大丈夫だろうと思っています。だから「これ」っていう対策はないんですけど、今は子どもを信用するだけです。

尾木 : やっぱり、ネットのリテラシーを、ちゃんとお父さんお母さんのほうも少しは勉強してっていうこと。

ごめんね、タンポポさん。

タンポポ : 勉強します (苦笑)

尾木 : 少しはやっぱり (子どもに) 伝えていくってことも大事だし。ただタンポポさんがえらいのは、ニュースを聞きながらね「ほらこうだよ」とかね、社会的な問題について関心向けておられるっていうのは、これだって直接的なルールじゃないけども、生きる力とか、判断力をつけてくわけですから、全然引け目に思うことないわよ。

やっぱり一番大事なのは、主体的な自己判断力とか自己決定力とか、自分のことを愛せているかどうかとか、そういう人間教育っていうの。インターネットのスキル (技術) のところだけじゃなくて「人としてどうなのか」っていうところもしっかり育てていけば、アダルトサイトにふっと入っちゃったってこともあるかわかんない、ちょっと手を切るかもわかんないけれども「うわーこれはとんでもないことだった」って、自己反省して、ちゃんと原点に戻れるんじゃないかと思う。

だから、インターネットのスキル (技術) をどれだけいっぱい教えていっても、そこの、人間教育のところ、生活力をつけるとか、そこが原点ですよ。そこが一番大事かなと思いますよね。だから、恐らく皆さんのご家庭は依存症にはなってないと思います。成績は聞きませんけどね (笑)

高山 : コスモスさん笑えばなしじゃないですか (笑)

コスモス : もう本当に。

尾木 : でもね、成績もね、もう下がらないっていうとこまでいくと安心よ。あとは伸びるだけ。

コスモス : 困りますー (苦笑)

これからのウワサの保護者会は…

子育てにまつわる、さまざまなテーマでお送りします。お楽しみに！

みんなの知恵が集まるホームページも必見！

(終)